



どんぐり



パークセンターだより 第79号 2006年6・7月号

シンプルさの中にある魅力

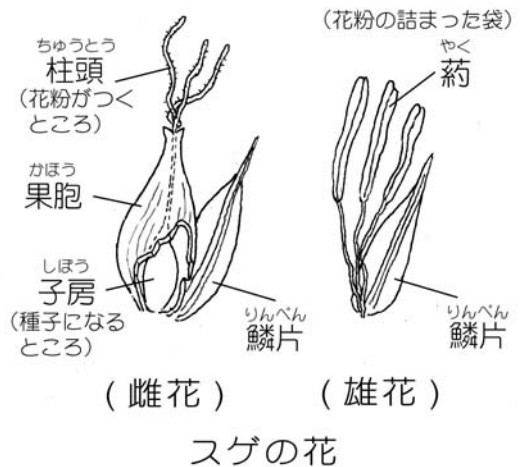
～スゲの話

自然解説員
おおたにまさと
大谷 雅人

皆さんはスゲ（菅）という植物をご存知でしょうか。時代劇などで菅笠が出てきたり、苗字の一部に菅の字が使われている有名人がいたりもするので、名前に聞き覚えのある方は多いと思います。しかし、その具体的な姿を想像できる人は少ないのではないのでしょうか。細長い葉と地味な花をもつ、カヤツリグサ科の植物です。

花粉を風で飛ばす彼らは、きれいな花びらや香り、蜜などを作って昆虫を引き寄せる必要がありません。そのため、ひとつひとつの花は小さくて、とても簡単なつくりになっています。雄花はほとんど雄しべだけ、雌花は「果胞」という袋に包まれた子房とその先についた雌しべだけ。それぞれが別々に、あるいは一緒になって「小穂」というブラシのようなかたまりを作りますが、基本的には緑や褐色の目立たない色調で、どの種類も似たような見た目をしています。日本に250種あまりが分布する大所帯でありながら、一般の人たちの間で話題になることが少ないのは、そのためでしょう。

ところが、花の横についている鱗片のかたちや果胞のつくり、小穂の並び方、茎の生え方など、細かな部分をじっくり観察してみると、種類ごとに様々に表情が違ってなかなか面白いものです。今まで同じものだと思っていた植物が実はいくつもの種類の集まりで、それぞれが微妙に違った環境に住みわけて共存している、そんな驚きを味わえるのはこの仲間くらいなもの。とっつきにくいけれど、一旦はまると止められなくなる。彼らはまさにそんな植物なのです。



スゲの大部分は春の終わりに花を咲かせるため、ちょうど今が実りの時期です。種を区別するときにはチェックするポイントの中でもっとも分かりやすいもののひとつが果実の特徴なので、この仲間を観察するにはもってこいの季節といえるでしょう。そこで今回は、21世紀の森と広場で見られるスゲの中からいくつかをご紹介します。



1. カサスゲ

池のへりや湿地に生える大型のスゲで、高さは最大で1m近くになります。21世紀の森では自然生態園しぜんせいだいえんのヨシ原などで見られ、地下茎を縦横無尽じゅうおうむじんに伸ばして大きな群落を作っています。春、ヨシの芽がやっと伸びはじめる頃に茎を立て、長さ5~10cmほどの小穂を上向きにつけます。てっぺんの小穂は全て雄花、それより下の小穂は全て雌花で構成されていますが、これは以下ヒカゲスゲまでに共通する特徴です。

葉は幅が1cm近くもあってとても丈夫なので、菅笠やみのなどの材料として使われていました。かつてはそのために栽培もされていたようです。

2. コジュスゲ

同じく湿った環境に多いスゲですが、カサスゲよりもずっと小型で高さはせいぜい30cmくらい。そのためか、湿った林の下や田んぼの畦のような場所など、背の高い植物が少ない場所に多いようです。

果胞は小穂のサイズの割には大型で、先がくちばしのように尖とがっているため遠めにも粒々に見えます。和名はそんな様子を数珠じゅうすにたとえたものなんでしょうか。



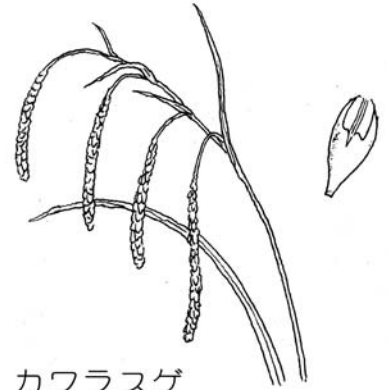
3. ヒカゲスゲ

関東平地の雑木林の中ではもっとも普通に見られるスゲのひとつで、下草が少なめで乾燥した場所を特に好みます。全体に繊細な印象の強い種類で、葉は糸のように細く、小穂はひょろりと伸びた茎にたくさんつきます。鱗片が濃い赤茶色をしているので、雄小穂も雌小穂も赤みを帯びて見えます。

4. カワラスゲ

その名の通り路傍や河原などの開けた草地に生えるスゲです。散策路の真ん中にオオバコなどとともに張りついていることもあるので、人の踏みつけもあまり気にならない様子。遅しいかぎりです。

細長くて何となくミミズのようにも見える小穂を何本も吊り下げた様子は独特なので、見分けるのは簡単な部類だといえるでしょう。花の性別の並びは基本的にカサスゲと同じですが、時折、てっぺんの小穂にも雌花が混ざります。



カワラスゲ

5. ヤガミスゲ



ヤガミスゲ

湿った草地を好むスゲで、自然生態園などでたまに見られます。長い花茎の先に柄のない小穂をびっしりとつけるので、上記のスゲたちとは草姿が一見して違ってきます。それぞれの小穂は上側3分の2くらいが雌花、下側3分の1くらいが雄花で構成されています。

ヤガミスゲの仲間は北アメリカにも分布していて、何種類かが日本に入ってきています。北海道では特に多く、国道や牧場などの脇の草地が舶来種（はくらい）のヤガミスゲ類で埋め尽くされていることもしばしば。いずれここでも見られるようになるかもしれません。

この他にも、21世紀の森には何種類かのスゲが見られます。春の頃に咲き乱れていた人目を引く花たちに飽きてしまった人は、彼らのひっそりとした生きざまに目を向けてみるとよいでしょう。新しい境地が開かれるかもしれません。

野のスミシのたのしみ

みどりの相談員
野のくちのりこく
野 口 宣 二

野に咲くかわいいスミシは世界的に有名なほど、日本にたくさんの種類が分布しています。大きく分けて60種くらいあり、細かくはその2～3倍にも達するといわれています。

野のスミシにはおもしろい性質をもつものがあることはご存知でしょうか？その1つはスミシの花にはふた通りあって春先の花は、みな美しくかわいいものを開きますが、その後に「閉鎖花」とよばれる蕾のような形をした花を出し、花弁もできずに直接実を結び完熟したら種子をはじきとばすということです。



タチツボスミシ

つぎに、形ですが普通のスミシの形のもの、花の後で茎がのびて大きくなるタチツボスミシの形態のものがあり、前者を無茎種といい、後者を有茎種と二分しています。

また、根の先に小苗をつけてふえるヒカゲスミシやコマヤマスミシなどおもしろい性質をもっています。いずれも繁殖力が旺盛です。

栽培すると実に楽しいもので、すばらしくよくできるもの、非常にむずかしいもの、枯れるまで花をつけない気むずかしいもの、葉だけでも美しい斑入りや切れ葉のないものなどがあり、趣も深いものです。

地植にするとよくできるものが多く、鉢づくりの方がむずかしいようです。性質からは日当りの良い所に自生するものの方がつくりやすく、深山の日陰を好むものや、高山の暑さをきらうものはむずかしいのですが、実生から育てると割合によく育ちます。一般的に野のスミシは実生で育てることが良いと思われます。

栽培の用土は山野草につかう水はけの良いものがよく、水ゴケや川砂の単用でもよく育ちます。アカダニやナメクジ、その他の害虫が多く注意を要しますが、丹精すれば必ずよくでき、野生以上のすばらしい花を見る事ができるでしょう。

昆虫に見えない虫

ーカイガラムシー

自然解説員
たなかひろたか
田中宏卓

皆さんはカイガラムシという虫をご存知ですか？カイガラムシはアブラムシに比較的^{きんえん}近縁な昆虫で植物の汁を吸って生活している昆虫なのですが、植物に寄生して生活する方向にどんどん進化していったために、ついにととう動くことすらほとんどなくなってしまった・・・というかなり変わった昆虫です。このカイガラムシは一般的にはあまりなじみのない昆虫ですが、農業や園芸上の害虫として取り上げられることがあり、また以前にも「どんぐり」で紹介させていただいたことがありますから、もしかしたらこの昆虫達のことをおぼえていらっしゃる方がいるかもしれませんね。

今回はこの、いわゆる「普通の」昆虫達とはまったく異なるカイガラムシにまたスポットライトをあて、21世紀の森と広場に発生するカイガラムシをいくつか紹介したいと思います。あまりの^{きみょう}奇妙さに「なんだコレ？」と驚くこと請け合いですよ？普通の昆虫とはぜんぜん違うカイガラムシの姿をお楽しみください。

[21世紀の森と広場に生息しているカイガラムシ]

カイガラムシの仲間は分類学的には、カメムシ目カイガラムシ上科というグループに含まれているもののことを指します。かなりたくさんの種が日本におり、また公園内にも紹介しきれないほどのカイガラムシがいます。今回はその中でも代表的で、かつユニークな次の2種を紹介します。

1. ビワコカタカイガラモドキ

21世紀の森と広場には千駄堀池という比較的大きな池があり、その周りの湿地にはヨシに代表される湿地に生える植物が生えています。このヨシの茎を覆っている葉をはがしてみると写真1のような5mm程度の小さな^{だえんけい}楕円形状のものがたくさんついているのを見ることができですが、これがビワコカタカイガラモドキというカイガラムシです。まったく動かず、



写真1. ビワコカタカイガラモドキ
(ヨシの葉をめくって撮影)

昆虫にも見えないですけれどもこれでも一応昆虫の仲間です。

このカイガラムシは卵から^{ふか}孵化したばかりの1令幼虫は脚が比較的よく発達していて自分で動くこともできるのですが、メスの成虫になると脚が退化してしままったく動くことができなくなってしまいます、あとはただヨシから栄養を吸って生活しているというちょっとすごい生活をしている虫です。かなり変ですよ。

あまり知られてないことなのですが、実はこのカイガラムシは小鳥たちにとって大切な昆虫です。小鳥たちにとって冬は^{えさ}餌が非常に少なくなる季節ですが、そのときに公園を訪れる小鳥たちのうちのいくつかの種はこのカイガラムシを食べて^の生き延びているのです。このカイガラムシがいなくていくつかの種類の小鳥たちは冬を越せなくなってしましまうのかもしれないよ？そうした意味でこの虫は^{せいたいけい}生態系の中で重要な役割をもつ虫であると言えますね。

2.ナガワタカイガラムシ

公園内でもよく見られるハゼノキを春先に観察していると白く長い変なものが^{じゅひ}樹皮にくっついてることがあります。これはナガワタカイガラムシ(写真 2, 3)というカイガラムシの卵のうで、先端に5mm程度の成虫がくっついていきます。



写真 2. ナガワタカイガラムシ
(卵のうを作っているところを撮影)

このカイガラムシのユニークな点は、これを新種として報告した桑名さんという方が1910年に最後の標本を^{さいしゅう}採集して以来、私が昨

年あらためて再確認するまで実に95年以上見つかってなかったという点です。多分この文章を読んでいるほとんどの方が生まれていなかったころから昨年までずっとこのカイガラムシは行方不明になってしまっていたのですよ。ちょっとすごいと思いませんか？

これだけ長い期間見つかってなかったのだからさぞかし珍しい昆虫なのだな・・・と思われる方がいるかもしれませんが、実際にはそんなことはなく、かなり身近なところでもこのカイガラムシを見ることができます。最近では街路樹にハナミズキという外国産の樹木が植えられることがよくあるのですが、どうい

うわけだかこのハナミズキにナガワタカイガラムシがいっぱい付くようになってしまっているのです。皆さんの身の回りのハナミズキを探してみてください。今の時期であれば、それほど苦勞することなくこのカイガラムシを見つけることができるでしょう。



写真3. ナガワタカイガラムシ(拡大写真)

さて、どうでしたか？カイガラムシという昆虫がどういうものかイメージできましたでしょうか？すごく「変な虫」ですよ？

昆虫という大きな生物のグループにはこうしたとんでもないものもいるのです。昆虫を観察するときにチョウチョやトンボ、カブトムシの仲間などの「普通の」昆虫をおいかけるとも良いですけど、たまにはこうした「変な」日のあたらぬ虫たちを眺めてみるのも楽しいと思いますよ。



みどりの相談室

パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

- 【相談日】 水・土・日曜日と祝日
【時 間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分
【電 話】 047-345-8738 ハナミツバチ



6・7月の催し物



講座	日時	対象・人数	講師・主催者	費用	受付
展示 「現代押し花アート展」	平成18年5月30日(火) ～6月4日(日)	どなたでも	原色現代押し花	無料	—
園芸教室 「生垣の作り方(実習有)」	平成18年6月3日(土) 13:30～15:00	どなたでも 30人	みどりの相談員 野口宣二氏	無料	5/15～
昆虫ウォッチング (雨天中止)	平成18年6月10日(土) 10:00～11:30	どなたでも 当日先着25人	自然解説員 田中宏卓氏	無料	当日
野草ウォッチング (雨天中止)	平成18年6月11日(日) 10:00～11:30	どなたでも 当日先着25人	自然解説員 加藤裕一氏	無料	当日
自然観察会 「春の昆虫観察会」	平成18年6月11日(日) 13:30～15:00	どなたでも 25人	プロナチュラリス ト 佐々木 洋氏	無料	受付 終了
展示 「野草・雑草・薬草の花」	平成18年6月13日(火) ～6月18日(日)	どなたでも	野草の会「響」	無料	—
園芸教室 「観葉植物の飾り方」	平成18年6月18日(日) 13:30～15:00	どなたでも 45人	みどりの相談員 青島尚祐氏	無料	6/1～
みどりの講習会 「はじめてのハーブ(キッチン ハーブ)」	平成18年6月24日(土) 13:30～15:30	どなたでも 30人	ハンギングバスケットマ スター 杉田佳子氏	2,000 円	6/1～
園芸教室 「夏草花と山野草の手入れ」	平成18年7月2日(日) 13:30～15:00	どなたでも 45人	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	当日
園芸教室 「おしゃれなコケ玉づくり」	平成18年7月15日(土) 13:30～15:00	どなたでも 30人	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	1,000 円	6/15～
野草ウォッチング (雨天中止)	平成18年7月22日(土) 10:00～11:30	どなたでも 当日先着25人	自然解説員 大谷雅人氏	無料	当日
昆虫ウォッチング (雨天中止)	平成18年7月23日(日) 10:00～11:30	どなたでも 当日先着25人	自然解説委員 吉岡 明良氏	無料	当日

注) 予定に変更が生じる場合がございますので、詳しくはパークセンターまでお問い合わせ下さい。

発行日：2006年6月1日
 発行：21世紀の森と広場パークセンター
 開館：9：00～16：30
 (7月21日からは9：00～18：00)
 月曜休館(祝日開館/翌日休館)
 〒270-2252 松戸市千駄堀269
 TEL 047-345-8900
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。
- ・ペットを連れての入園はできません。
- ・動物・植物をとらないで下さい。

